

## 第3学年1組 音楽科学習指導案

題材名：いろいろな音のひびきをかんとろう

男子13名 女子21名 計34名

指導者 津野 裕二

## 題材について

- 本題材は、小学校学習指導要領音楽科第3学年及び第4学年の目標（2）「基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。」「A表現」（1）のイ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現をし、思いや意図をもって歌うこと」（2）のア「節奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。」ウ「音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」エ「互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」（3）のア「いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。」イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。」「B鑑賞」（1）のア「曲想とその変化を感じ取って聴くこと。」ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。」「共通事項」1のアの（ア）「音色、リズム、旋律、音の重なり、拍の流れ」（イ）「変化」を受け設定している。

本題材は低学年の題材「いろいろな音を楽しもう」の流れを受け継ぎ、音色を中心に音の重なりや、音楽の仕組みとのかかわりを取り上げながら、表現と鑑賞の学習を進めていくものである。教材としては「トランペット吹きの休日」「アレグロ」で金管楽器の音色に親しみ、「まほうの音楽」でいろいろな楽器の組み合わせを考え、イメージにあった音楽表現をする。

主教材の「パフ」は、すでに子どもたちが地域や幼稚園やなどで馴染んでいる曲であり、とても親しみをもっている。曲は合奏形態となっており、編成は、主旋律を中心に、副次的な旋律のパート、響きを支える低音のパート、リズム伴奏のパートで構成されている。全体的にはシンプルでありながらも、充実した音の響きを楽しむことができるようになっている。

- 本学級の児童は、アンケート調査において、「音楽が好き。」と答えた児童は90%で、音楽が流れると一緒に口ずさんだり、拍子に合わせて自然に体を揺らしたりする児童が多い。また、新しい歌や初めてのリコーダーとの出会いも積極的に楽しんでいる。音楽づくりの学習については、楽器の奏法や仕組み、音色の違いなどにも興味を持っている児童が多く、即興的な表現も主体的に取り組むことが出来ている。

## ○課題を発見・解決する力

指導にあたっては、一次で管楽器の音色の違いを体験させ、楽器の音色や奏法に興味をもたせる。二次ではいろいろな楽器の音色の違いに興味を持たせ、それを組合せることによってさまざまな表現が出来ることに気付かせる。そして三次では主教材の「パフ」を使って、打楽器を選択したり、オルガンの低音伴奏をつけたりする活動を行う。

○**深く考える力**

楽器の奏法技能を充実させるためにICTを使用し、シミュレーション映像などを見せて理想的な運指を発見させる。また、アンサンブルオルガンや打楽器の音色の響きを知り、それらの音の重なりが生み出すよさや面白さ、美しさに気づき、それらをもとにしてグループで自分たちなりの「パフ」を演奏するにはどうしたらよいか考え、計画的な活動ができるようにする。そして、グループで発表し、よりよいものにするために相互鑑賞して表現や工夫のよさを見つける活動を取り入れていきたい。

○**自己を理解する力**

指導の過程では、模範演奏はもちろんであるが、それだけでなく児童の演奏を、いろいろな場面で聴き合う事ができれば、それぞれの進歩や課題を共有し合うことができる。具体的な学習場面としては、先生役の児童や教師のお助けコーナー、あるいはリコーダークイズやまねっこ遊び、挑戦コーナーなど、ワンポイントでたくさんの児童の演奏を聴き合う場面等で、同じフレーズの演奏を聴き比べて自分との違いを見付けたり、上手く演奏できない原因を運指や運指のタイミングなどと関連付けて考えさせたりするような学び合いの場の設定をし、お互いの演奏のよさともに自分の課題も見付けられるようにさせていきたい。そして、自分の学んだことをもとに、それを練習の中で活かして共に楽しく高まっていこうという意欲をもたせていきたい。

**題材の目標**

- 楽器の音の特徴や音色の違いを生かして、イメージに合う音を即興的に表現したり、反復などの音楽の仕組みを生かしてまとまりある音楽をつくったりする。

【A表現（1）イ（2）アウエ（3）アイ】

- 楽器の音の特徴や音色の違いを感じ取りながら、互いの楽器の音を聴いて音を合わせて演奏したり、楽曲の構造に気を付けて聴いたりする。

【B鑑賞（1）アウ】

**題材の評価規準**

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能	エ鑑賞の能力
① 歌詞が表す場面を思い浮かべ、それにふさわしい歌い方を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に取り組もうとしている。 ② 楽器の音の特徴や音色を生かした即興的な表現に進んで取り組もうとしている。 ③ 楽器の音色や拍の流れに気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	① 楽器の音色を聴き取り、その特徴を感じ取りながらいろいろな音の響きやその組合せを工夫し、どのような音楽をつくるかについて発想をもっている。	① 音の重ね方や反復、変化などの音楽の仕組みを生かして、オルガンで演奏している。 ② 楽器の音色に気をつけてリコーダーを演奏している。	① 金管楽器の音色や旋律に気を付けて聴き、旋律の反復や変化が生み出す面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。

④金管楽器の音色や旋律の特徴に興味・関心をもち、旋律の反復や構成に気を付けて聴く学習に取り組もうとしている。	②音色やその重なりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取って楽器の音の組合せや重ね方などを考えイメージに合う音をつくるための考えや意図をもっている。	③友だちの楽器の音やほかのパートの旋律を聴きながら自分の音を合わせて合奏している。	
--	---	---	--

## 指導と評価の計画

全9時間

次	時	学習内容	評価					
			関	創	表	鑑	評価規準【共通事項】	評価方法
一	1	<b>課題の設定（1）</b> ○「トランペット吹きの休日／アレグロ」を聴き比べ金管楽器の音色に親しむとともに、旋律の特徴を感じ取る。楽器の形や演奏の仕方にも関心持ち学習意欲を高める。	○			◎	金管楽器の音色や旋律に気を付けて聴き、旋律の反復や変化が生み出す面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。(エ) ①【音色】 ・金管楽器の音色や旋律の特徴に興味・関心をもち、旋律の反復や構成に気を付けて聴く学習に取り組もうとしている。 (ア) ④【旋律】	発言 ワークシート
	2	<b>まとめ・創造・表現</b> ○軽快なリズムを感じ取り、魔法使いの様子を思い浮かべながら表現を工夫する。	◎				・歌詞が表す場面を思い浮かべ、それにふさわしい歌い方を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に取り組もうとしている。 (ア) ①【旋律】	行動観察 演奏聴取
二	3	○いろいろな楽器をならし、響きの長さや音色の違いを生かしてまほうの音楽のもとをつくる。	◎	○			・楽器の音の特徴や音色を生かした即興的な表現に進んで取り組もうとしている。(ア) ②【音色】 ・楽器の音色を聴き取り、その特徴を感じ取りながらいろいろな音の響きやその組合せを工夫し、どのような音楽をつくるかについて発想をもっている。 (イ) ①【音の重なり】	行動観察 演奏聴取

	4	○「まほうの音楽のもと」の組合せや重ね方を工夫しながら、「まほうの音楽」をつくる。楽器の組合せを変えることによって、様々な表現ができることに気付く。				◎	・音色やその重なりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取って楽器の音の組合せや重ね方、反復の仕方などを考えイメージに合う音をつくるための考えや意図をもっている。 (イ) ②【音の重なり】	行動観察 演奏聴取	
	5	○歌やナレーションやせりふ、「まほうの音楽」を入れて「おかいのすきなまほう使い」の音楽表現をたのしむ。				◎	・音の重ね方や反復,変化などの音楽の仕組みを生かして,音を音楽に構成している。 (ウ) ①【変化】【音の重なり】	演奏聴取	
三	6	○「パフ」の曲想をつかんで主旋律を歌う。合奏を意識し、付点4分音符のリズムや息継ぎの位置そろえたりする。				◎	・楽器の音色に気をつけてリコーダーを演奏している。 (ウ) ②【音色】	演奏聴取	
	7	○息の強さや音色に気をつけて、リコーダーで主な旋律と副次的な旋律を演奏する。	◎				・楽器の音色や拍の流れに気をつけて、旋律楽器や打楽器を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(ア) ③【旋律】	行動観察 演奏聴取	
	8	○指遣いや重なり合う楽器の音の響きに気を付けながらオルガンのパートを演奏する。 【本時】					◎	・音の重ね方や反復,変化などの音楽の仕組みを生かして,オルガンで演奏している。 (ウ) ①【拍の流れ】	演奏聴取
	9	○楽器の組合せや考え、重なり合う楽器の響きやリズムに気を付けて合奏を楽しむ。					◎	・友だちの楽器の音やほかのパートの旋律を聴きながら自分の音を合わせて合奏している。 (ウ) ③【リズム】	演奏聴取
	10	<b>振り返り(1)</b> ○発表会を行い、学習の交流をする。					◎	・友だちの楽器の音やほかのパートの旋律を聴きながら自分の音を合わせて合奏している。 (ウ) ③【リズム】	演奏聴取

## 本時の学習

### (1) 本時の目標

- 拍の流れにのってオルガンパートを演奏できるようにする。

(2) 本時の評価規準

・音の重ね方や反復,変化などの音楽の仕組みを生かして,オルガンパートを演奏している。

(ウ) ①

(3) 準備物

○ アンサンブルオルガン ○楽譜 ○タブレット端末

(4) 本時の学習展開 (8時間目/全9時間)

☆ ICT活用のポイント⇒歌唱場面でのイメージ映像の提示 運指指導での鍵盤のTV投影

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質能力</p>
<p>1 既習曲や月の集会の歌を歌う。(3～4曲)</p> <p>2 リコーダーを演奏する。「パフ」</p>	<p>◇楽しい雰囲気になるような声かけや,リラックスして表現できるような指揮をする。</p> <p>◇リズムに合わせて,しっかり指が動かせるように意識させる。</p>	<p>ICT 教材 歌詞指導用映像</p>
<p>3 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>オルガンパートを練習して,パフの合奏をよりかっこよくしよう。</p> </div>		
<p>4 主旋律を階名唱で歌う。</p>	<p>◇主旋律の音型に慣れさせるために,階名唱をして,拍の流れをイメージできるようにする。</p>	
<p>5 運指に気を付けて低音オルガンパートを練習する。</p> <p>○ 伴奏パートをうまく演奏するひみつはなんだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>□思考の場の工夫</p> <p style="text-align: center;"><b>関連付ける</b></p> <p>タブレット端末で運指の様子をみせることにより,視覚的に合理的な動きを理解でき,全体で共有すること</p> <p>① 休符を感じる ② 指をたくさん使う ③ とまらない</p> </div>	<p>◇アンサンブルオルガンで個人練習ができるようにする。</p> <p>◇タブレットを使って,指名した児童の指下を映像で流し,気づきを発表する。</p> <p>◇正しい運指ができるように指番号を意識させる。</p> <p>◆1本指で弾いている児童には4,1で弾くように声かけをする。</p> <p>◇正しいリズムで曲を演奏するだけでなく手の形や姿勢にも気を付けて聴かせ,相互評価させる。</p>	<p>◎音の重ね方や反復,変化などの音楽の仕組みを生かして,オルガンで演奏している。(演奏聴取)</p> <p>☆思考力</p>

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> <p>☆育成したい資質能力</p>
<p>6 練習の成果を発表して指名グループの演奏を聴き合う。</p> <p>○ グループでポイントの中でどれをがんばっているかを見付けよう。</p>	<p>◇各フレーズ止まらずに演奏ができるように根気よく繰り返し練習させる。</p> <p>◇指名グループに発表させることにより、アンサンブル練習への意欲を高めたり、自信を深めたりする。</p>	
<p>★めざす児童の姿</p> <p>運指に気を付け、拍の流れにのってオルガンで正しく曲を演奏する。</p>		
<p>7 本時の学習をまとめる。</p> <p>アンサンブルに気を付けてパフを演奏する。</p>	<p>◇次時の合奏への意欲を高めるために、指名児童による主旋律を入れて演奏する。</p>	

(5)板書計画

めあて

オルガンパートを練習して、パフの合奏をよりかっこよくしよう。

ポイント

- ① 休符を感じる
- ② 指をたくさん使う
- ③ とまらない

歌詞

カード

歌詞

カード